



北海道大学 社会科学実験研究センター

# 2023 年度年次活動報告書

2024 年 4 月



北海道大学 社会科学実験研究センター  
2023 年度年次活動報告書(2024 年 4 月)

※センターの沿革などについてはホームページへ移行しました。

<https://lynx.let.hokudai.ac.jp/cerss/>

1. 社会科学実験研究センターとは

(1)センターの理念

- ・社会科学における実験研究のための手法の開発と普及を通して、社会科学の実験科学化を推進する。
- ・社会科学における実験研究の本格的導入により、人間科学と社会科学の双方に対して共通の対話可能な研究環境を提供する。
- ・人間・社会科学における実験研究のための国際実験ネットワークの構築を進め、世界各国の拠点を結ぶ国際実験の促進をめざす。
- ・実験研究を通して人間科学と社会科学とを結びつけるための研究活動を行い、その成果を国際的に発信することのできる若手人材を育成する。

(2)センターの主な役割

- ・社会科学実験の国際拠点として先端的研究を展開し、研究成果を国際発信する。
- ・社会科学実験の中心として、他大学の研究者との協力のもと、若手研究者を育成する(博士研究員・リサーチャーの受け入れ、ワークショップの開催等)。

(3)施設概要

北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 6 階に、1) 集団実験室、2) 国際ネットワーク実験室、3) 感覚システム実験室を有している。これらの実験設備は、国際的にも最高水準の社会科学実験施設である。

2. 2023 年度の活動実績の概要

(1)施設利用

実験室での対面実験への参加者数は 2023 年度に引き続いて回復し、同時にオンライン実験も実施されている。

- ・実験室稼働総日数: 延べ 96 日
- ・実験参加者数: 1,386 名 (22 プロジェクト)

(2)研究業績

< 人文・社会科学系の兼務教員に限定 >  
著書・分担執筆

全 8 件	8 件: 和書
-------	---------

学術論文

全 30 件	国際誌: 23 件	国内誌: 7 件:
--------	-----------	-----------

学会発表

全 69 件	国際学会: 10 件:	国内学会: 59 件:
--------	-------------	-------------

(詳細は「p. 8~14 研究業績一覧」参照)。

(3)競争的資金獲得

- ・科学研究費補助金: 37 件、総額 57,769 千円(うち人文・社会系 32 件・39,334 千円)
- ・その他の研究助成: 19 件、129,743 千円(うち人文・社会系 9 件・34,963 千円)

(※分担者に関しては分担額を算入)(詳細は「資料 4 競争的資金獲得状況(p. 5~7)」参照)

(4)拠点間連携

連携研究者との活動を通じて、海外の先端研究拠点との連携を引き続き推進している。前センター長の結城雅樹教授は、オックスフォード大学社会的凝集性研究センター所長であり、同大学社会人類学科長でもある Harvey Whitehouse 教授が主導する心理学・人類学・歴史学の融合を通じて人間行動と文化の進化・発展を検討する国際共同研究プロジェクト Seshat に参画している。センター長の大沼進教授は、Asian Journal of Social Psychology の編集委員長をはじめ様々な国際誌の編集委員を務める香港科技大学社会科学部 Kim-Pong Tam 准教授と、環境行動の国際比較調査の共同研究を推進している。兼務教員の竹澤正哲教授は、マンハイム大学データサイエンスセンター所長の Jutta Mata 教授とともに、日本学術振興会 二国間交流事業(共同研究・セミナー) に採択されたことを契機に、文化進化学に関する国際共同研究を開始した。また 日本学術振興会 外国人研究者招へい事業により招致したクラークソン大学 Andreas Wilke 教授と、適応的認知についての共同研究をおこなっている。

国内の主要拠点との連携も強化している。2021 年度からは、京都大学情報学研究科教授で、人工知能学会の業績賞や功績賞、国際知識情報創造システム学会など国際学会で数々の優秀発表賞を受賞するなど、マルチエージェントシステム分野ではトップランナーの伊藤

孝行教授を連携研究員に迎え、JST-CREST などを通じた共同研究を行っている。

### (5) 若手研究者の支援とその成果

- ・本センターで研究を行った大学院生の競争的外部資金獲得:3件、学術賞:4件(表1)
- ・日本学術振興会特別研究員:6名(表2)

表1 2023年度に院生および研究員が獲得した学会賞・学術賞・フェローシップ・研究助成

氏名	学会賞・学術賞・フェローシップ
市村風花	第20回日本認知心理学会優秀発表賞
晴木祐助	第20回日本認知心理学会優秀発表賞
水鳥翔伍	2023年度日本心理学会優秀論文賞
相馬ゆめ	2023年度日本リスク学会 大会優秀発表賞
Jason Freeman	Summer School Grant Award, Asian Association of Social Psychology
Jason Freeman	Travel Award, Society of Australasian Social Psychologists
日下部春野	大学院生・若手研究者海外学会発表支援制度(日本社会心理学会)

表2 日本学術振興会特別研究員

氏名	資格	受給期間(年度)	研究費(千円)	研究課題名
前田友吾	DC1	2021~2023	700	協力行動の多様性をもたらすもの:関係流動性と自己意識的感情の役割
反田智之	DC1	2021~2023	700	注意の抑制的制御と特性・状態不安のクロストーク
本間祥吾	DC2	2022~2023	800	不確実な環境における制度と心の共進化:資源分配とリスク回避の理論・実証的検討
水鳥翔伍	DC1	2022~2024	800	協力問題の解決における他者評価の機能と妥当性—理論と実証の相互補完的連携—
晴木祐助	DC1	2022~2024	800	予測符号化理論による内受容感覚の生起メカニズムの理解:非侵襲な方法による実証研究
貴堂雄太	DC1	2022~2024	800	協力及びその文化差の起源を探る—文化的集団淘汰理論に基づく理論・実証的検討—

### (6) 教育活動

大学院共通授業科目「入門ベイジアンモデリング」を開講した。

本学のサマープログラムである Hokkaido Summer Institute 2023 (HSI2023)で招へいされた世界第一線の文化心理学者(アルバータ大学心理学部・増田貴彦教授、



図1 増田教授による大学院生への指導風景

授、ウィスコンシン大学グリーンベイ校心理学部・先崎沙和准教授)より、本センターで研究を行っている大学院生が研究指導を受けた。

本センター主催のコロキウム(CERSSコロキウム)を6件(内4件が海外からの研究者)開催した。

### 3. 2023年度の活動の点検・総括

#### (1) 4つの目標別の点検・評価

①実験実施状況はコロナ禍によるダメージから回復している。対面実験が実施できない状況下で導入された本センターの保有する実験参加者登録システムを用いたオンライン実験も、堅実に実施されている。実験参加者数は2022年度に続いて増加となり、堅調に回復している。

2023年度に本センターの参加者登録システムや実験設備のインフラを利用した実験は22件実施され、総実験室稼働日数は年間延べ96日、実験参加者総数は延べ1,386名であった。これはコロナ禍以前の2019年度の数字に近づいている。実験参加者総数が延べ1,000人以上という規模での実験研究の組織的推進は国内において類例がなく、国際的にも屈指の規模である。

②2023年2月に本センターに着任したさきがけ研究者の小倉有紀子特任助教の研究活動が本格化した。本センター小倉特任助教は、さきがけ「[社会変革基盤]文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創」に採択された当初は東京大学の特別研究員であったが、研究に専念するため、実験環境が整っている本センターを志願して移籍した。小倉特任助教は「共生の条件を探る:価値観の融和はどこまで可能か?」という研究課題に、

実験社会科学と神経科学や情報学の手法とを組み合わせ、真に文理融合の研究に取り組んでいる。このような日本の将来を背負う若手研究者を迎え入れられたことは、本センターに魅力的な研究環境が整っており、有為の人材育成の拠点であることを示す揺るぎない証左である。

「若手研究者の支援とその成果」(p.2)にも示したように、本センターに活動基盤を置く若手研究者が4件の学術賞を得た。また、日本学術振興会の特別研究員として6名が採用され、特別研究員奨励費6件に加えて3件の競争的外部資金を獲得した。この他に若手研究者育成の成果として特筆すべき点として、大学院生の相馬ゆめが第9回日本ミニ・パブリックス研究フォーラムにて招待講演を行った。これらの成果は、本センターが、自立した研究者の育成に向け、若手が早期から主体的な研究活動を行えるための場を提供してきたことの表れと言える。

ゲストスピーカーを招き CERSS コロキウムを6回実施した。また、Hokkaido Summer Institute 2023として文学研究院が開催した、アルバータ大学心理学部の増田貴彦教授による集中講義「文化心理学の最前線 2023」の開講を支援し、その機会を有効に活かすために大学院生向けの英語論文執筆ワークショップを開催した。

これまで本センターで教育指導を受けた若手研究者は、実験社会科学を担う有為の人材として高く評価され、国内外の大学や研究機関のポジションを獲得してきた。2023年度は、本拠点で教育を受けた大学院生及び出身者が、玉川大学脳科学研究所、帝京大学先端総合研究機構に新たなポジションを得た。

以上のように、本センターでは、「社会科学実験分野における有為の若手人材の育成」という所期の目標が着実に達成されている。

### ③国際的にインパクトのある研究成果の発信

2023年度には、計23本の国際学術論文が掲載もしくは掲載決定し、10件の国際学会発表がなされた。本センター構成員(専任教員・兼務教員及びその指導学生や雇用ポスト等)による学術論文は、*Scientific Reports* (総合科学)、*Frontiers in Psychology*、*Journal of Psychology*、*European Journal of Social Psychology* (心理学)、*Neuroscience Letters*、*Cerebral Cortex* (脳神経科学)、*Journal of Environmental Management*、*Journal of Material Cycles and Waste Management* (環境科学)など広範な領域にまたがる第一線の国際学術誌に掲載された。また、本センター構成員による論文は、心理学、経済

学、経営学、社会学、政治学、法学、人類学、情報科学、進化生物学、動物行動学、社会物理学など、やはり広範な領域の国際学術誌で多数の引用を受けている。例えば Altmetric Score で、センター長の大沼進教授と兼務教員の結城雅樹教授、瀧本彩加准教授、竹澤正哲教授、河原純一郎教授、小川健二准教授、河西哲子教授、阿部匡樹准教授、小浜祥子准教授の論文が Top 5%を維持している。また本数では、Top 5%と Top 25%に、それぞれ22本と24本、本センターの教員が出版した論文が入っている。

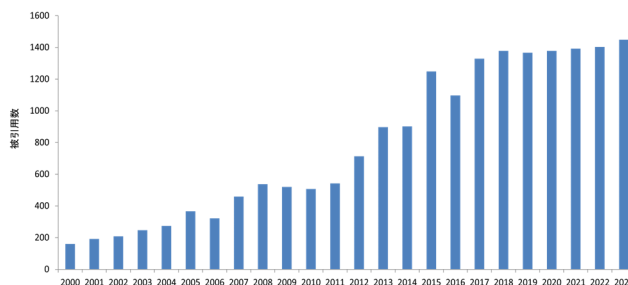


図2 国際学術誌における論文被引用数の推移

図2は、本センター構成員による論文の国際学術誌における引用回数の推移を示している。本センターが発足した2007年以降、国際業績が着実に増加し、高止まりの状態にあることがわかる(注:本センターには、医歯薬系部局からの兼務教員もいるが人文・社会科学系の構成員による研究成果のみを掲載している)

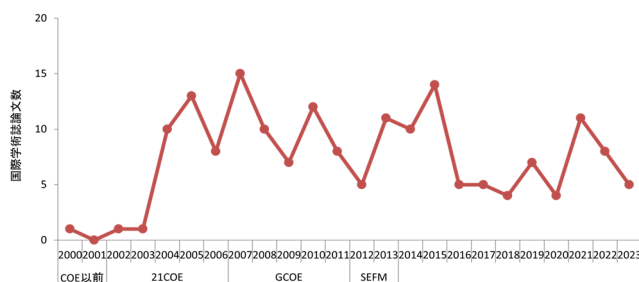


図3 院生・PDが第一著者として公刊した国際学術論文数の推移

図3に、院生・ポストドクが第一著者となって出版された国際学術論文数の推移を示す。

以上のように、「国際的にインパクトのある研究成果の発信」という所期の目標に向け着実に進展している。

### ④国内外の研究拠点との連携強化を通じた、人間・社会科学における実験研究のための国際ネットワークの構築

本センターは、さきがけをはじめ、CREST、国際共同研究加速基金、基盤A、環境総合推進費などの研究資金を獲得しており、社会科学系として傑出した実績を上



げている。このことは、単に資金面だけでなく、国内外のネットワーク拡張・連携強化とも連動する。すなわち、これらの競争的資金は共同研究からなっており、これらのプロジェクトなどを通じて、国内外の主要研究拠点(英オックスフォード大学認知進化人類学研究所、独マックスプランク進化人類学研究所、香港科技大社会科学部、米ウィリアム&メリー大学心理学科、英ポーツマス大学心理学部・比較進化心理学センター、東京大学人文社会系研究科、京都大学文学研究科・情報学研究科・経済研究所、玉川大学脳科学研究所、北陸先端総合科学大学院大学、名古屋大学情報学研究科、奈良先端科学技術大学院大学、産業技術総合研究所、国立環境研究所、統計数理研究所など)との間に共同研究体制を構築・拡張している。

2020年1月30日付で日本学術会議が公開した「第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン」(マスタープラン2020)では、学術大型研究計画(区分Ⅰ)の一つに「調和ある多様性に向けての新しい心理学の構築」が採択され、北海道大学もその実施機関に含まれている。同計画は、マスタープラン2010、および文科省「最先端研究基盤事業」の補助対象事業としても採択された「心の先端研究のための連携拠点(WISH)構築」事業で積み重ねられた実績を、さらに次のフェーズへと飛躍させるものであると位置づけられている。

WISH事業では、本センターに対してシーメンス社製3テスラMAGNETOM Prisma(施設整備費補助事業;3億円)が導入され、現在も本センターの研究設備として稼働している。同装置は本学医歯学総合研究棟に設置され、本センターに所属するメンバーだけでなく、医学系から理学系、教育学系に至る全学の研究者によって幅広く利用されている。本装置の導入を通じて、学内の部局間に加え、学内外の先端研究拠点間の壁を超えた研究連携が推進されている。

## (2)総括と今後の展望

以上のように、本センターは、教育および研究活動を通じて、社会科学実験の国際的の中核拠点としての高い評価を確立してきた。こうした実績は、「社会科学実験に関する教育研究の進展に資することを目的とする」という本センターの設立目的に適うものである。

さきがけ研究者の特任助教の着任に象徴されるように、本センターは秀逸な若手研究者の集まる拠点であることは明白である。

このように、本センターは社会科学実験の国際的の中核拠点として、日々の研究教育活動を鋭意展開している。北海道大学の人文社会科学分野における屈指の先端研究拠点として、社会科学実験の国際的進展と普及に努めつつ、来るべき「人間・社会科学統合」に向けて世界的役割を果たしていくことが、本センターの今後の重要なミッションである。

**資料 1 CERSS コロキウム、共催ワークショップ学術セミナー等**

日付	タイトル	講演者
CERSS コロキウム		
2023/7/31	音楽文化の知能科学への機械学習と進化過程のモデルに基づくアプローチ	中村栄太(京都大学白眉センター、特定助教)
2023/8/8	Enriching environmental psychology with cross-national comparisons.	Kevin Kim-Pong Tam (The Hong Kong University of Science and Technology, Associate Professor)
2023/10/5	Food for thought: The potential of a social approach to promote healthy, sustainable eating.	Jutta Mata (Professor of Health Psychology, University of Mannheim; Director, Mannheim Center of Data Science)
2023/11/30	The adaptivity of human search.	Andreas Wilke(クラークソン大学心理学部・教授)
2024/2/15	動物の暮らしを覗いて、心を探る、ヒトを知る	中道正之 (大阪大学名誉教授)
2024/3/18	Status Reversal and Its Discontents	Michael Hechter (School of Politics and Global Studies, Arizona State University, Professor)

**資料 2 学外研究機関との共同研究による施設利用実績**

2023 年度に本センターの参加者登録システムや実験設備のインフラを利用した実験は 22 件実施され、総実験室稼働日数は年間延べ 96 日、実験参加者総数は延べ 1,386 名であった。

さらに、2014 年度より利用を開始した磁気共鳴画像装置(MRI)の 2023 年度稼働日数は 154 日、実験参加者総数は 145 名であった。

**資料 3 アウトリーチ活動**

日付	タイトル	実施者
2023/4/27	経営戦略の考え方(札幌市社会福祉協議会 経営改善推進会議)	深山誠也
2023/5/1	循環型社会に向けた NPO の役割と今後について(NPO 法人環境り・ふれんず設立 20 周年特別記念講演会)	大沼進
2023/6/4	私以外私じゃないの」は当たり前? : 自分が分かる不思議を繙く(第 65 回北大祭・文系祭1テーマ講義「謎」)	阿部匡樹
2023/6/24	プラ問題研究の最前線(第 35 回京都めぐる SDGs 問答)	大沼進
2023/8/6	鏡映しの理解: ミラーシステムを繙く(北海道大学オープンキャンパス 2023 教育学部「自由参加プログラム」)	阿部匡樹
2023/12/20	第 4 期経営計画策定ワークショップ(札幌市社会福祉協議会 経営改善推進会議)	深山誠也
2024/1/27	循環を実現する販売・消費の在り方(第 40 回京都めぐる SDGs 問答)	大沼進

2024/3/2	環境配慮の取組と社会的な協力(第 16 回さっぽろスリムネットフォーラム)	大沼進
----------	---------------------------------------	-----

**資料 4 競争的資金獲得状況の詳細**

**文部科学省科学研究費(代表)**

(社会科学実験研究センター教員が代表を務める研究について、2023 年度に交付された直接経費の金額)

資金名	期間(年度)	代表者(他・分担者数)	金額(千円)
研究課題			金額(千円)
基盤研究(A)	2020～2024	宮内泰介、他 12 名	
多層的で動的なプロセスとしてのコミュニティ: 実践論的アプローチによる研究			6,200
基盤研究(A)	2022～2025	高橋伸幸、他 4 名	
一般交換において用いられる評判情報を作りだす情報統合過程の理論的・実証的検討			2,000
基盤研究(A)	2021～2025	田中真樹	
状況適応的な行動制御における大脳小脳連関の役割			10,100
基盤研究(B)	2020～2023	河原純一郎	
過敏性腸症候群を不安モデル症例とした新しい注意バイアス修正法の開発			3,600
基盤研究(B)	2021～2023	小川健二	
経頭蓋電気刺激による安静時脳活動の操作と運動学習能力の制御			3,600
基盤研究(B)	2022～2026	大沼進、他 3 名	
分断を乗り越えた共通善を目指す合意形成過程: 功利主義 vs 多元的公正の超克			2,600
基盤研究(B)	2022～2026	瀧本彩加	
共同養育とその心理基盤に関する比較認知発達科学研究			1,900
基盤研究(B)	2023～2027	結城雅樹、他 3 名	
高関係流動性下の自己奉仕性と向社会的性のパラドクスーポジティブ評判期待の役割			2,800
基盤研究(B)	2023～2025	矢部一郎	
Bassoon proteinopathy 病態に関する継続研究			6,000
基盤研究(C)	2023～2025	阿部匡樹、他 1 名	
最適化か、社会性か: 共同行為における潜在的組織化の解明			1,400
挑戦的研究(萌芽)	2022～2024	小川健二	
脳状態可視化に基づく内受容注意モニタリングシステム開発とマインドフルネスへの応用			1,500
挑戦的研究(萌芽)	2022～2024	田中真樹	
n-back 課題を用いた中央実行系の神経機構の解明			2,200
挑戦的研究(萌芽)	2022～2024	尾崎一郎	
法言語の美的洗練による応答性の向上—計量言語分析と社会心理実験による検証—			1,800

若手研究	2021～2024	小倉有紀子	
柔軟な社会情報利用戦略の神経基盤			1,300

### 文部科学省科学研究費(分担)

(社会科学実験研究センター教員が分担者を務める研究について、2023年度に配分された分担額)

資金名	期間(年度)	分担者	金額(千円)
研究課題			金額(千円)
国際共同研究加速基金(海外連携研究)	2023～2025	金子沙永(代表:四本裕子、他1名)	
時間感覚知覚の神経機序の検証と理論に基づく時間感覚操作法の確立			800
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2018～2023	小浜祥子(代表:多湖淳、他2名)	
サーベイ実験による政治情報伝達現象の国際協働研究			100
基盤研究(A)	2020～2023	金子沙永(代表:栗木一郎、他6名)	
色情報の脳内処理過程と知覚との対応			650
基盤研究(A)	2022～2026	小浜祥子(代表:多湖淳、他5名)	
国際関係をめぐる不満の国際比較実証研究			600
基盤研究(A)	2023～2026	小浜祥子(代表:鈴木基史、他6名)	
分断する国際政治における国際協調とガバナンスの政治経済分析			200
基盤研究(A)	2020～2023	小浜祥子(代表:久米郁男、他10名)	
政治的分極化の総合的研究			400
基盤研究(A)	2021～2026	小浜祥子(代表:久保文明、他19名)	
現代アメリカにおける政治的地殻変動:政党再編と政策的収斂			185
基盤研究(A)	2023～2026	小川健二・金子沙永(代表:高橋康介、他1名)	
知覚像はどこまで自由に操れるのか:知覚像制御の心的過程と脳内基盤の解明			3,100
基盤研究(A)	2022～2025	瀧本彩加(代表:高橋伸幸、他3名)	
一般交換において用いられる評判情報を作り出す情報統合過程の理論的・実証的検討			1,900
基盤研究(B)	2020～2023	河原純一郎(代表:近藤洋史)	
知覚と注意のゆらぎのメカニズムを脳活動と自律神経系から統合的に理解する			300
基盤研究(B)	2022～2025	小浜祥子(代表:清水直樹、他5名)	
選挙対策としての政策変更:選挙の存在が政策に及ぼす影響の包括的分析			350
基盤研究(B)	2021～2025	大沼進(代表:安藤香織、他3名)	
多元的無知が環境配慮行動を阻害するプロセスの解明-国際比較調査・実験による検討			170
基盤研究(B)	2022～2025	大沼進(代表:鈴木研悟、他3名)	
AIと人間のゲームプレイを統合するエネルギー政策評価法の提案			200

基盤研究(B)	2022～2024	宮内泰介(代表:菅豊、他9名)	
ヴァナキュラー概念を用いた文化研究の視座の構築-民俗学的転回のために-			200
基盤研究(B)	2021～2024	矢部一郎(代表:野田航介、他2名)	
加齢黄斑変性におけるセリン/スレオニンキナーゼ LRRK2 の病態意義解明			100
基盤研究(C)	2023～2025	深山誠也(代表:平本健太)	
政策形成と組織間関係-新・政策の窓モデルによる実証研究			500
基盤研究(C)	2021～2023	河原純一郎(代表:佐藤広英、他1名)	
潜在連合テストによるスマートフォン依存リスク検出の試み			100
基盤研究(C)	2023～2026	河原純一郎(代表:大杉尚之)	
「ホスピタリティ」を感じさせる身体動作のパラメータ推定			200
基盤研究(C)	2021～2024	大沼進(代表:水田恵三、他2名)	
なぜ戻り、どのように復興しようとしているのか-原発被害者の帰住に関する研究-			50
基盤研究(C)	2021～2023	大沼進(代表:大澤英昭、他1名)	
高レベル放射性廃棄物地層処分施設の立地方策選定過程が社会的受容に与える影響			30
基盤研究(C)	2022～2025	矢部一郎(代表:饗場郁子、他10名)	
パーキンソンズを呈する神経変性疾患におけるサルコペニア・骨粗鬆症と予後の関連			35
挑戦的研究(開拓)	2021～2024	高橋泰城(代表:松井知子、他5名)	
統計・機械学習による異分野相関を俯瞰する方法論の確立			500

### 文部科学省科学研究費を除く研究助成

(社会科学実験研究センター教員が代表及び分担者を務める研究について、2023年度に交付・配分された金額)

資金名	期間	代表者・分担者	金額(千円)
研究課題			金額(千円)
環境省(環境再生保全機構) 環境総合推進費	2022～2024	大沼進、他1名	
県外最終処分・周辺地域の将来デザイン利用に向けた社会受容性評価と合意形成フレームワークに関する研究 県外最終処分等に関わる多元的公正の整理および実験的評価			7,000
国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 (JST CREST)	2020～2025	大沼進(代表:伊藤孝行、他3名)	
ハイパーデモクラシー:ソーシャルマルチエージェントに基づく大規模合意形成プラットフォームの実現			11,500
環境省(環境再生保全機構) 環境研究総合推進費	2021～2025	大沼進(代表:大迫政浩、他9名)	
3R プラスと海洋プラスチック排出抑制対策に係る評価システムの構築			1,538

内閣府戦略的イノベーション創造プログラム「サーキュラーエコノミーシステムの構築」	2023～2027	大沼進(代表: 浅利美鈴)	
プラスチックの適切な資源循環システム構築に向けた消費者等の行動変容に係る実践的研究			1,500
NTT 受託研究	2023	大沼進、他 1 名	
社会的な意思決定場面における公正な合意形成プロセスの研究			500
戦略的創造研究推進事業(さががけ)	2022～2025	小倉有紀子	
共生の条件を探る: 価値観の融和はどこまで可能か?			7,580
JSPS 二国間交流事業	2023	竹澤正哲	
子から親への文化伝達: 健康心理学と文化進化論の接合による新たな文化伝達の探求			5,000
JSPS 外国人研究者招へい事業	2023	竹澤正哲	
ランダムさの誤認識の計算論モデル: 発達および進化的視点から			500
生理学研究所共同利用研究	2023	阿部匡樹、他 2 名	
共同行為の神経基盤: 三名同時脳活動計測によるアプローチ			300
JST 戦略的創造研究推進事業 CREST	2023～2029	田中真樹	
「感覚入力の周期性が生み出す脳機能の理解とその操作」			6,300
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業	2021～2023	矢部一郎	
分子病態に基づく脊髄小脳失調症 1 型遺伝子治療の医師主導治験			79,980

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 橋渡し研究プログラム	2022～2023	矢部一郎(代表: 湯山耕平)	
アルツハイマー病早期診断のための細胞外小胞デジタル検出法開発			2,000
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業	2023～2025	矢部一郎(代表: 塩田倫史)	
CAG/CTG リピート伸長病における DNA 標的治療薬の開発			2,000
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業	2022～2023	矢部一郎(代表: 矢口裕章)	
超生少難治性疾患である免疫介在性小脳性運動失調症の疾患レジストリ構築および治療法確立を目的としたエビデンス創出研究			1,000
厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患政策研究事業)	2023～2025	矢部一郎(代表: 久留聡)	
スモンに関する調査研究			200
厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患政策研究事業)	2022～2023	矢部一郎(代表: 水澤英洋)	
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究			1,000
厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)	2022～2024	矢部一郎(代表: 阿部康二)	
「筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群」(ME/CFS) の実態調査および客観的診断法の確立に関する研究			800
厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)	2023～2025	矢部一郎(代表: 小野寺理)	
運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班			700
厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)	2023～2025	矢部一郎(代表: 戸田達史)	
神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者の QOL 向上に資する研究			800



## 【著書・分担執筆(和書)】

- Gazzaley, A. & Rozen, L. D. (2016). *The distracted mind: Ancient brains in a high-tech world*, The MIT Press. (ガザレイ, A & ローゼン, L. D., 河西哲子(監訳)・成田啓行(訳). (2023). 私たちはなぜスマホを手放せないのか. 福村出版.)
- 河原純一郎. (2023). 研究倫理. In 岩壁茂・遠藤利彦・黒木俊秀・中嶋義文・中村知靖・橋本和明・増沢高・村瀬嘉代子(編). 臨床心理学スタンダードテキスト. 金剛出版.
- 河原純一郎. (2024). ボズナー, マイケル. In サトウ タツヤ(監修)・長岡千賀・横光健吾・和田有史(編). 人物で読む心理学辞典. 朝倉書店.
- 宮内泰介・三上直之(編著). (2024). シリーズ環境社会学 6 複雑な問題をどう解決すればよいのか: 環境社会学の視点 新泉社.
- 村井吉敬・宮内泰介. (2023). 小さな民からの発想: 顔のない豊かさを問う. めこん.
- 尾崎一郎. (2023). 個人化する社会と閉塞する法. 日本評論社.
- 瀧本(猪瀬)彩加. (2023). 情動—他者とのつながりを育む心の基盤. In 板倉昭二(編). 比べてわかる心の発達—比較認知発達科学の視点. 有斐閣.
- 瀧本(猪瀬)彩加. (2023). 豊かな情動をやりとりするウマ——仲間を思いやり, 嫉妬もする. In 科学 2023 年 8 月号【特集】動物の社会的情動. 岩波書店.
- 田中真樹・岡田研一・亀田将史. (2023). 【時間の神経科学-時を生み出すところと脳の仕組み】時間の心理学と神経科学 同期運動とリズム知覚の神経機構. (株)中外医学社.
- 矢部一郎. (2023). 各種検査(電気生理学的検査, 髄液検査). In 脊椎・脊髄疾患の外科 第 2 版. 三輪書店.
- 矢部一郎. (2024). 進行性核上性麻痺. In 今日の治療指針 2024 年版—私はこう治療している. 医学書院.

## 【学術雑誌(国際誌)】

- Abe, M., Yaguchi, H., Kudo, A., Nagai, A., Shirai, S., Takahashi-Iwata, I., Matsushima, M., Nakamura, N., Isahaya, K., Yamano, Y., Ashida, S., Kasai, T., Tanaka, K., Watabnabe, M., Kondo, R., Takahashi, H., Hatakeyama, S., Takekoshi, A., Kimura, A., Shiohata, T., & Yabe, I. (2023). Sez612 autoimmunity in a large cohort study. *Journal of Neurology, Neurosurgery & Psychiatry*, **94**(8), 667-668, doi:10.1136/jnnp-2022-330194.
- Aiba, I., Hayashi, Y., Shimohata, T., Yoshida, M., Saito, Y., Wakabayashi, K., Komori, T., Hasegawa, M., Ikeuchi, T., Tokumaru, A. M., Sakurai, K., Murayama, S., Hasegawa, K., Uchihara, T., Toyoshima, Y., Saito, Y., Yabe, I., Tanikawa, S., Sugaya, K., Hayashi, K., Sano, T., Takao, M., Sakai, M., Fujimura, H., Takigawa, H., Adachi, T., Hanajima, R., Yokota, O., Miki, T., Iwasaki, Y., Kobayashi, M., Arai, N., Ohkubo, T., Yokota, T., Mori, K., Ito, M., Ishida, C., Tanaka, M., Idezuka, J., Kanazawa, M., Aoki, K., Aoki, M., Hasegawa, T., Watanabe, H., Hashizume, A., Niwa, H., Yasui, K., Ito, K., Washimi, Y., Mukai, E., Kubota, A., Toda, T., Nakashima, K., & J-VAC study group (2023). Clinical course of pathologically confirmed corticobasal degeneration and corticobasal syndrome. *Brain Communications*, **5**(6), fcad296, doi:10.1093/braincomms/fcad296.
- Easterbrook, M. J., Grigoryan, L., Smith, P. B., Koc, Y., Lun, V., M. C., Papastylianou, D., Torres, C., Efremova, M., Hassan, B., Abbas, A., al-Selim, H., Anderson, J., Cross, S. E., Delfino, G. I., Gamsakhurdia, V., Gavreliuc, A., Gavreliuc, D., Gul, P., Gunsoy, C., Hakobjanyan, A. Lay, S., Lopukhova, O., Hu, P., Sunar, D., Teixeira, M. L. M., Tripodi, D., Rivera, P. E. D., Yuki, M., Ogunu, N., Kwantes, C. T., Diaz-Loving, R., Floriano, L. P., Chaleerakrakoon, T., & Chobthamkit, P. (2024). The Social Cure Properties of Groups Across Cultures: Groups Provide More Support but Have Stronger Norms and Are Less Curative in Relationally Immobility Societies. *Social Psychological and Personality Science*, doi:10.1177/19485506241230847.
- Eguchi, K., Takigawa, I., Shirai, S., Takahashi-Iwata, I., Matsushima, M., Kano, T., Yaguchi, H., & Yabe, I. (2023). Gait Video-Based Prediction of Unified Parkinson's Disease Rating Scale Score: A Retrospective Study. *BMC Neurol*, **23**(1), 358, doi:10.1186/s12883-023-03385-2.
- Eguchi, K., Yaguchi, H., Kudo, I., Kimura, I., Nabekura, T., Kumagai, R., Fujita, K., Nakashiro, Y., Iida, Y., Hamada, S., Honma, S., Takei, A., Moriwaka, F., & Yabe, I. (2023). Differentiation of speech in Parkinson's disease and spinocerebellar degeneration using deep neural networks. *Journal of Neurology*, doi:10.1007/s00415-023-12091-5.
- Eguchi, K., Yaguchi, H., Nakakubo, S., Nakajima, M., Ueda, Y., Egawa, K., Shiraiishi, H., & Yabe, I. (2023). Video-based detection of epileptic spasms in West syndrome using a deep neural network: A pilot case study. *Journal of Neurological Science*, **449**, 120671, doi:10.1016/j.jns.2023.120671.
- Hadfi, R., Okuhara, S., Haqbeen, J., Sahab, S., Ohnuma, S., & Ito, T. (2023). Conversational agents enhance women's contribution in online debates. *Scientific Reports*, **13**(1), 14534, doi:10.1038/s41598-023-41703-3.
- Hagio, K., Kikuchi, J., Takada, K., Tanabe, H., Sugiyama, M., Ohhara, Y., Amano, T., Yuki, S., Komatsu, Y., Osawa, T., Hatanaka, K., Hatanaka, Y., Mitamura, T., Yabe, I., Matsuno, Y., manabe, A., Sakurai, A., Ishiguro, A., Takahashi, M., Yokouchi, H., Naruse, H., Mizukami, Y., Akita, H., & Kinoshita, I. (2023). Assessment for the timing of comprehensive genomic profiling tests in patients with advanced solid cancers. *Cancer Science*, **114** (8), 3385-3395, doi:10.1111/cas.15837.
- Haruki, Y., & Ogawa, K. (2023). Disrupted interoceptive awareness by auditory distractor: Difficulty inferring the internal bodily states? *Neuroscience Research*, doi:10.1016/j.neures.2023.11.002.
- Ikebe, Y., Sato, R., Amemiya, T., Udo, N., Matsushima, M., Yabe, I., Yamaguchi, A., Sasaki, M., Harada, M., Matsukawa, N., Kawata, Y., Bito, Y., Shirai, T., Ochi, H., & Kudo, K. (2023). Prediction of amyloid positron emission tomography positivity using multiple regression analysis of quantitative susceptibility mapping. *Magnetic Resonance Imaging*, **103**, 192-197, doi: 10.1016/j.mri.2023.08.002.
- Inamasu, K., Kohama, S., Mifune, N., Ohtsubo, Y., & Tago, A. (2023). The Association between ideology and resistance to governmental apology depends on political knowledge. *Japanese Journal of Political Science*, **24**, 348-367, doi:10.1017/S1468109923000130.
- Isozaki, H., Nonaka, M., Komori, Y., Ueno, K., Iwamura, H., Miyata, M., Yamamura, N., Li, Y., Takeda, J., Nonaka, Y., Yabe, I., Zaitu, M., Nakashima, K., & Asai, A. (2024). Survey of medications for myelomeningocele patients over

- their lifetime in Japan. *Brain & Development*, **46**(1), 18-27, doi:10.1016/j.braindev.2023.08.004.
- Kameda, M., Niikawa, K., Uematsu, A., & Tanaka, M. (2023). Sensory and motor representations of internalized rhythms in the cerebellum and basal ganglia. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*, **120**(24), e2221641120, doi:10.1073/pnas.2221641120.
- Kamatani, M., Miyazaki, Y., & Kawahara, J. I. (2023). Occlusion of faces by sanitary masks improves facial attractiveness of other races. *Frontiers in Psychology*, **13**, doi:10.3389/fpsyg.2022.953389.
- Kimura, I., Noyama, H., Onagawa, R., Takemi, M., Osu, R., & Kawahara, J. I. (2024). Efficacy of neurofeedback training for improving attentional performance in healthy adults: A systematic review and meta-analysis. *Imaging Neuroscience*, **2**, 1-23, doi:10.1162/imag\_a\_00053.
- Kohama, S., Quek, K., & Tago, A. (2023). Managing the Costs of Backing Down: A "Mirror Experiment" on Reputations and Audience Costs in a Real-World Conflict. *The Journal of Politics*, **86**(1), 388-393, doi:10.1086/726927.
- Kondo, H. M., Terashima, H., Kihara, K., Kochiyama, T., Shimada, Y., & Kawahara, J. I. (2023). Prefrontal GABA and glutamate-glutamine levels affect sustained attention. *Cerebral cortex*, **33**(19), 10441-10452, doi:10.1093/cercor/bhad294.
- Kudo, A., Yaguchi, H., Tanaka, K., Kimura, A., & Yabe, I. (2024). A retrospective study of autoimmune cerebellar ataxia over a 20-year period in a single institution. *Journal of Neurology*, **271**(1), 553-563, doi: 10.1007/s00415-023-11946-1.
- Lun, V. M.-C., Smith, P. B., Grigoryan, L., Torres, C., Papastylianou, A., Lopukhova, O. G., Sunar, D., Easterbrook, M. J., Koc, Y., Selim, H. A., Chobthamkit, P., Chaleeraktragoon, T., Gul, P., Floriano, L. P., Diaz-Loving, R., Kwantes, C. T., Yuki, M., Ogusu, N., van Osch, Y., Texeira, M. L. M., Hu, P., Abbas, A., Tripodi, D., Lay, S., Efremova, M., Hassan, B., Ahmad, A. H., al-Bayati, A., Anderson, J., Cross, S. E., Delfino, G. I., Gamsakhurdia, V., Gavreliuc, A., Gavreliuc, D., Gunsoy, C., Rivera, P. E. D., & Hakobjanyan, A. (2023). Need for approval from others and face concerns as predictors of interpersonal conflict outcome in 29 cultural groups International. *Journal of Psychology*, **58**(3), 258-271, doi:10.1002/ijop.12895.
- Matsuda, N., & Abe, M. O. (2024). Implicit motor adaptation driven by intermittent and invariant errors. *Experimental Brain Research*, **241**, 2125-2132, doi:10.1007/s00221-023-06667-w.
- Mitsui, J., Matsukawa, T., Uemura, Y., Kawahara, T., Chikada, A., Porto, K. J. L., Naruse, H., Tanaka, M., Ishiura, H., Toda, T., Kuzuyama, H., Hirano, M., Wada, I., Ga, T., Moritoyo, T., Takahashi, Y., Mizusawa, H., Ishikawa, K., Yokota, T., Kuwabara, S., Sawamoto, N., Takahashi, R., Abe, K., Ishihara, T., Onodera, O., Matsuse, D., Yamasaki, R., Kira, J. I., Katsuno, M., Hanajima, R., Ogata, K., Takashima, H., Matsushima, M., Yabe, I., Sasaki, H., & Tsuji, S. (2023). High-dose ubiquinol supplementation in multiple-system atrophy: a multicentre, randomised, double-blinded, placebo-controlled phase 2 trial. *EClinicalMedicine*, **59**, 101920, doi:10.1016/j.eclinm.2023.101920.
- Miyazaki, Y., Kamatani, M., Tsurumi, S., Suda, T., Wakasugi, K., Matsunaga, K., & Kawahara, J. I. (2023). Effects of wearing an opaque or transparent face mask on the perception of facial expressions: A comparative study between Japanese school-aged children and adults. *Perception*, **50**, 11-12, doi:10.1177/03010066231200693.
- Miyazaki, Y., Sakushima, K., Niino, M., Takahashi, E., Oiwa, K., Naganuma, R., Amino, I., Akimoto, S., Minami, N., Yabe, I., & Kikuchi, S. (2023). Smoking and younger age at onset in anti-acetylcholine receptor antibody-positive myasthenia gravis. *Immunological Medicine*, **46**(2), 77-83, doi:10.1080/25785826.2022.2143077.
- Mizushima, K., Shibata, Y., Shirai, S., Matsushima, M., Miyatake, S., Iwata, I., Yaguchi, H., Matsumoto, N., & Yabe, I. (2024). Prevalence of repeat expansions causing autosomal dominant spinocerebellar ataxias in Hokkaido, the northernmost island of Japan. *Journal of Human Genetics*, **69**(1), 27-31, doi:10.1038/s10038-023-01200-x.
- Mori, Y., Nakamata, T., Kuwayama, R., Yuki, S., & Ohnuma, S. (2024). Developing the littering behavior model focusing on implementation intention: a challenge to anti-environmental behavior. *Journal of Material Cycles and Waste Management*. DOI:https://doi.org/10.1007/s10163-024-01909-7
- Nakamura, R., Tohnai, G., Nakatochi, M., Atsuta, N., Watanabe, H., Ito, D., Katsuno, M., Hirakawa, A., Izumi, Y., Morita, M., Hirayama, T., Kano, O., Kanai, K., Hattori, N., Taniguchi, A., Suzuki, N., Aoki, M., Iwata, I., Yabe, I., Shibuya, K., Kuwabara, S., Oda, M., Hashimoto, R., Aiba, I., Ishihara, T., Onodera, O., Yamashita, T., Abe, K., Mizoguchi, K., Shimizu, T., Ikeda, Y., Yokota, T., Hasegawa, K., Tanaka, F., Nakashima, K., Kaji, R., Niwa, J., Doyu, M., Terao, C., Ikegawa, S., Fujimori, K., Nakamura, S., Ozawa, F., Morimoto, S., Onodera, K., Ito, T., Okada, Y., Okano, H., Sobue, G., on behalf of the Japanese Consortium for Amyotrophic Lateral Sclerosis research (JaCALS) study group (2023). Genetic factors affecting survival in Japanese patients with sporadic amyotrophic lateral sclerosis: a genome-wide association study and verification in iPSC-derived motor neurons from patients. *Journal of Neurology, Neurosurgery & Psychiatry*, **94**(10), 816-824, doi:10.1136/jnnp-2022-330851.
- Nayani, F., Yuki, M., Maddux, W. W. & Schug, J. (2023). Lay theories about emotion recognition explain cultural differences in willingness to wear facial masks during the COVID-19 pandemic. *Current Research in Ecological and Social Psychology*, **4**, 100089, doi:10.1016/j.cresp.2023.100089.
- Niida, M., Haruki, Y., Imai, F., & Ogawa, K. (2023). Neural substrates of top-down processing during perceptual duration-based timing and beat-based timing. *Experimental brain research*, **241**(8), 2133-2143, doi:10.1007/s00221-023-06665-y.
- Ogawa, K., & Matsuyama, Y. (2023). Heterogeneity of social cognition between visual perspective-taking and theory of mind in the temporo-parietal junction. *Neuroscience Letters*, **807**, 137267-137267, doi:10.1016/j.neulet.2023.137267.
- Ogura, Y., Wakatsuki, Y., Hashimoto, N., Miyamoto, T., Nakai, Y., Toyomaki, A., Tsuchida, Y., Nakagawa, S., Inoue, T., & Kusumi, I. (2023). Hyperthymic temperament predicts neural responsiveness for nonmonetary reward. *Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports*, **2**(3), doi:10.1002/pcn5.140.
- Ohtsubo, Y., Himichi, T., Inamasu, K., Kohama, S., Mifune, N., & Tago, A. (2023). Do reconciliation events serve as a conciliatory signal? *European Journal of Social Psychology*, doi:10.1002/ejsp.3028.

- Sahab, S., Haqbeen, J., Hadfi, R., Ito, T., Imade, R. E., Ohnuma, S., & Hasegawa T. (2024). E-contact facilitated by conversational agents reduces interethnic prejudice and anxiety in Afghanistan. *Communications psychology*, 2, 22. <https://doi.org/10.1038/s44271-024-00070-z>
- Shirai, K., Takada, M., Murakami, M., Ohnuma, S., Yamada, K., Osako, M., & Yasutaka, T. (2023). Factors influencing acceptability of final disposal of incinerated ash and decontaminated soil from TEPCO's Fukushima Daiichi nuclear power plant accident. *Journal of Environmental Management*, 345, 118610. doi:10.1016/j.jenvman.2023.118610.
- Shirai, S., Mizushima, K., Fujiwara, K., Koshimizu, E., Matsushima, M., Miyatake, S., Iwata, I., Yaguchi, H., Matsumoto, N., & Yabe, I. (2023). Case series: Downbeat Nystagmus in SCA27B. *Journal of the Neurological Science*, 454, 120849. doi:10.1016/j.jns.2023.120849.
- Tarisawa, M., Kano, T., Ishimaru, T., Nomura, T., Mizushima, K., Horiuchi, K., Takahashi-Iwata, I., Ura, S., Minami, N., Houzen, H., & Yabe, I. (2023). Clinical characteristics of patients with cryptococcal meningitis in Hokkaido: A case series. *Internal Medicine*, doi:10.2169/internalmedicine.1944-23..
- Tokushige, S. I., Matsuda, S., Tada, M., Yabe, I., Takeda, A., Tanaka, H., Hatakenaka, M., Enomoto, H., Kobayashi, S., Shimizu, K., Shimizu, T., Kotsuki, N., Inomata-Terada, S., Furubayashi, T., Ichikawa, Y., Hanajima, R., Tsuji, S., Ugawa, Y., & Terao, Y. (2023). Roles of the cerebellum and basal ganglia in temporal integration: Insights from a synchronized tapping task. *Clinical Neurophysiology*, 158, 1-15. doi:10.1016/j.clinph.2023.11.018.
- Yaguchi, H., Kudo, A., & Yabe, I. (2023). Autoimmune Cerebellar Ataxia. *Clinical Experimental Neuroimmunology*, 14(4), 159-166. doi:10.1111/cen3.12752.
- Yamada, K., Yaguchi, H., Ishikawa, K., Tanaka, D., Oshima, Y., Mizushima, K., Uwatoko, H., Shirai, S., Iwata, I., Matsushima, M., Tanaka, K., & Yabe, I. (2023). Lambert-Eaton myasthenic syndrome complicated by anti-GABAB receptor encephalitis. *Internal Medicine*, doi:10.2169/internalmedicine.2569-23.
- Yamagata, T., Ichikawa, K., Mizutori, S., Haruki, Y., & Ogawa, K. (2023). Revisiting the relationship between illusory hand ownership induced by visuotactile synchrony and cardiac interoceptive accuracy. *Scientific reports*, 13(1), 17132-17132. doi:10.1038/s41598-023-43990-2.
- Yokoyama, M., Ohnuma, S., Osawa, H., Ohtomo, S., & Hirose, Y. (2023). Public acceptance of nuclear waste disposal sites: a decision-making process utilising the 'veil of ignorance' concept. *Humanities and Social Sciences Communications*, 10(1). doi:10.1057/s41599-023-02139-2.
- Zhou, X., English, A. S., Kulich, S. J., Zheng, L., Alves, T., Aquino, S. D., Očovaj, S. B., Belen, H., Biddle, A., Boonroungru, C., Campos, F., Castro, R., Chettiar, C., Chobthamkit, P., Cowden, R. G., Dubrov, D., Falavarjani, M. F., Farid, T., Geeraer, N., Grigoryev, D., Gunawan, H., Hofhuis, J., Hossain, K. N., Huang, K., Jiang, H., Jovanović, V., Khieowan, N., Klimek-Tulwin, M., Kosakowska-Berezecka, N., Kuns, J. R., Lefringhausen, K., Li, X., Lins, S., Malik, S., Maricchiolo, F., Martínez-Buelvas, L., Medosevic-Korjenic, E., Nam, B. H., Navarro-Carrillo, G., Candido, J. Neto, P., Novaes, F., Oliver, E., Paolini, D., Park, J., Šakan, D., Schwarzenthal, M., Sun, Q., Talhelm, T., Thomson, R., Tipandjan, A., Tong, R., Torres-Marín, J., Wang, S., Wei, Yeung, V. W. L., Yousefi, M., Yudiarsa, A., Yuki, M., & Zhang, X. (2023). COVID-19 cases correlates with greater acceptance coping in flexible cultures: A cross-cultural study in 26 countries. *Social and Personality Psychology Compass*, 18(2), e12919. doi:10.1111/spc3.12919.

## 【学術雑誌(国内誌)】

- 阿部恵・矢口裕章・工藤彰彦・長井梓・白井慎一・岩田育子・松島理明・中村直子・伊佐早健司・山野嘉久・芦田真士・笠井高士・田中恵子・渡部昌・近藤豪・高橋秀尚・畠山鎮次・竹腰颯・木村暁夫・下畑亨良・矢部一郎. (2023). Sez612 抗体は稀ならず小脳性運動失調症を惹起する自己抗体である—自己免疫性小脳失調症コホート研究からの知見. *北海道医学雑誌*, 98(2), 114.
- 穴田麻真子・工藤彰彦・阿部恵・白井慎一・岩田育子・松島理明・矢口裕章・吉田 雅・種井善一・矢部一郎. (2023). S 状結腸に  $\alpha$ -synuclein 病理を確認した認知症を伴うパーキンソン病の 1 例. *日本内科学会雑誌*, 112(8), 1402-1408.
- 足澤萌奈美・脇田雅大・上床尚・阿部恵・松島理明・矢部一郎. (2023). B 症状や末梢神経障害を契機に診断された、クリオグロブリン血症性血管炎の 1 例. *臨床神経学*, 63(5), 291-297. doi:10.5692/clinicalneurolog.cn-001827.
- 深山誠也. (2024). 高齢者介護組織の経営に関する事例分析—北海長正会とさつき会—. *地域経済経営ネットワークセンター年報*, 13.
- 深山誠也. (2024). 高齢者介護組織の外部環境—「社会福祉法人制度」と「介護保険制度」による影響—. *高知論叢*, 126.
- 前田友吾・結城雅樹. (2023). 成功時の誇り・羞恥経験の文化差に対する関係流動性の媒介効果. *心理学研究*, 94, 402-412. doi:10.4992/jjpsy.94.22032.
- 松島理明・水島慶一・矢部一郎. (2023). ミトコンドリア病. *遺伝子医学*, 13(3), 3-4.
- 松島理明・矢部一郎. (2023). 脊髄小脳失調症 (SCA) . *遺伝子医学*, 13(3), 91-96.
- 松島理明・白井慎一・矢部一郎. (2023). ファブリー病. *遺伝子医学*, 13(4), 3-4.
- 松島理明・矢部一郎. (2023). 多系統萎縮症の運動失調. *脳神経内科*, 99(4), 468-472.
- 松島理明・矢部一郎. (2023). 脊髄小脳変性症治療薬. *BRAIN and NERVE*, 75(5), 498-502. doi:10.11477/mf.1416202366.
- 松島理明・矢部一郎. (2023). [Case2 手足のしびれ] 手足のしびれがあつて整形外科でも診てもらっていますが、よくなりません. *臨床雑誌 内科*, 132(3), 652-655. doi:10.15106/j\_naika132\_652.
- 松島理明・矢部一郎. (2023). 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症; 総論. *月刊 難病と在宅ケア*, 29(6), 6-8.
- 松山友美・佐竹真理恵・阿部恵・矢口裕章・矢部一郎. (2023). Seizure-related 6 homolog like 2 (Sez612) 抗体関連自己免疫性小脳失調症の 1 例. *臨床神経学*, 63(10), 665-671. doi:10.5692/clinicalneurolog.cn-001869.
- 長井梓・永井利幸・矢口裕章・藤井信太郎・上床尚・白井慎一・岩田育子・松島理明・堀内一宏・浦 茂久・安斉

- 俊久・矢部一郎. (2023). 抗ミトコンドリア M2 抗体陽性筋炎の臨床的特徴. *北海道医学雑誌*, **98**(1), 36.
- 大瀧祐貴・上床尚・矢口裕章・岩田育子・金子仁彦・高橋利幸・田中恵子・浦茂久・藤原一男・矢部一郎. (印刷中). 自己免疫性脳炎の診断基準を満たすミエリンオリゴグロサイト糖タンパク抗体関連疾患の3例の臨床的特徴. *神経治療学*.
- 尾崎一郎. (2024). 宗教の根源性と法の必要性 — 櫻井論文を承けて —. *法律時報*, **96**, 79-84.
- 柴田侑秀・中山幸太・相馬ゆめ・折登いずみ・横山実紀・大沼進. (2024). 北海道における高レベル放射性廃棄物地層処分文獻調査応募を巡る動きについての新聞報道分析. *リスク学研究*, **33**, 139-151, doi:10.11447/jjra.S-22-022.
- 相馬ゆめ・中澤高師・辰巳智行・大沼進. (2023). 最不遇者情報が集団決定に与える効果：除去土壌福島県外処理問題を題材とした集団討議実験. *心理学研究*, **95**, doi:10.4992/jjpsy.95.22030.
- 瀧本(猪瀬)彩加・上野将敬・堀裕亮・中道正之. (2023). ウマの子育て. *動物心理学研究*, **73**, 107-121, doi:10.2502/janip.73.2.9.
- 辻本光英・河合康介・見砂太一・横山実紀・大沼進. (2024). 異なる利害を持つステークホルダーの共有資源管理をめぐる合意形成過程：地熱発電合意形成ゲームを用いた検討. *シミュレーション&ゲーミング*, **33**, 57-67, doi:10.32165/jasag.33.2\_57.
- 矢部一郎. (2024). 遺伝性脊髄小脳変性症の臨床における最近の進歩. *臨床神経学*, **64** 135-147, doi:10.5692/clinicalneuro.cn-001931.
- 矢部一郎・柴田有花. (2023). 本邦におけるゲノム医療の現状と将来の頭痛診療への応用に向けた希望的予測. *日本頭痛学会誌*, **50**, 126-130, doi:10.50860/jjho.50.1\_126.
- 矢口裕章・矢部一郎. (2023). 自己免疫性小脳失調症の自己抗体検査. *CLINICAL NEUROSCIENCE*, **41**(8), 1100-1101.
- 【学会発表(国際学会)】**
- Abe, M. O. (2023). Self-other distinction in human communication: Sense of agency, joint action, and empathy. *Phenomenology of Empathy Series: Conceptualizations, Pathologies, Gender Implications, and Clinical Applications*.
- Bi, Y. (2023). What makes you approach strangers? The role of relational mobility, general trust, and self-esteem. *The 15th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology*.
- Freeman, J. (2023). Societal Threats and Collective Action. *Asian Association of Social Psychology (AASP) Summer School*.
- Freeman, J. (2023). Empathic Concern as a Social-Ecological Adaptation: The Role of Relational Mobility. *The 15th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology*.
- Freeman, J. (2023). The Role of Relational Mobility in Reactions to Moral Norm Violations. *Society for Australasian Social Psychologists (SASP) Summer School*.
- Freeman, J. (2024). The role of relational mobility in explaining cross-cultural differences in prosocial response to social exclusion. *2024 Society for Personality and Social Psychology Annual Convention*.
- Haruki, Y., Suzuki, K., & Ogawa, K. (2023). Interoceptive attention modulates cognitive feeling in visual perception. *International Symposium on Predictive Brain and Cognitive Feelings*.
- Kaneko, S. (2023). Investigating the dynamic impact of spatial context on visual perception: insights from psychophysical studies. *Tohoku NeuroTech Symposium (TNS) 2023*.
- Kawahara, J. I., & Tsurumi, S. (2023). Examining the effect of partial occlusion on facial attractiveness by a de-mosaicking task. *Psychonomic Society 64th Annual Meeting*.
- Kobayashi, K., & Kasai, T. (2023). Monitoring multiple-others' facial expressions and its relation with trait empathy. *2023 Annual Meeting of Society for Psychophysiology*.
- Kusakabe, H. (2024). Where does the cultural difference in rejection avoidance come from? The role of relational mobility and reputational concern. *2024 Society for Personality and Social Psychology Annual Convention*.
- Maeda, Y. (2024). The role of relational mobility on the cultural difference in assertiveness intensity. *2024 Society for Personality and Social Psychology Annual Convention*.
- Niida, M., Haruki, Y., Imai, F., & Ogawa, K. (2023). Neural substrates of top-down processing during perceptual duration-based and beat-based timing. *29th annual meeting of The Organization for Human Brain Mapping*.
- Ogawa, K. (2023). Decoding of neural representations involved in subjective bodily awareness. *International Symposium on Predictive Brain and Cognitive Feelings*.
- Schug, J., & Freeman, J. (2023). Do ecological factors impact racial preferences in dating? A large study of users' racial preferences on an online dating platform. *2024 Society for Southeastern Social Psychologists Annual Convention*.
- Souma, Y., Nakazawa, T., Tatsumi, T., & Ohnuma, S. (2023). The effect of the least advantaged people's information on the discourse in a group discussion. *The 19th biennial meeting of the International Society for Justice Research*.
- Zhu, Y. (2023). Exploring the cross-cultural differences in conspicuous consumption between the US and Japan. *The 15th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology*.
- Zhu, Y. (2023). Prestige based Hierarchy Leads to Green Consumption: a Cross-cultural Comparative Study. *Annual Conference of the Committee on Social Psychology of Chinese Psychological Society*.
- Zhu, Y. (2024). The manipulation of relational mobility. *2024 Society for Personality and Social Psychology Annual Convention*.
- 【学会発表(国内学会)】**
- 安藤香織・井奥智大・神原歩・杉浦淳吉・金山英莉花・大沼進. (2023). 気候変動の原因帰属にはどのメディアが影響しているのか：国際比較. 第64回日本社会心理学会.
- Bi, Y. (2023). What Makes You Approach or Avoid Strangers? The Roles of Relational Mobility, General Trust, and Self-Esteem. 日本社会心理学会第64回大会.
- 江口克紀・藤田賢一・中城雄一・濱田晋輔・飯田有紀・野中道夫・本間早苗・武井麻子・森若文雄・矢口裕章・矢部一郎. (2023). 音声データと深層学習を利用した運動低下性および失調性構音障害の鑑別. 第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres.
- 岩田育子・上床尚・白井慎一・松島理明・矢口裕章・石黒信久・豊嶋崇徳・矢部一郎. (2023). 中枢神経感染症の診断と治療に対する髄液多項目核酸検査の効果. 第27回日本神経感染症学会総会・学術大会.



- 晴木祐助・金子景・小川 健二. (2023). 内受容感覚の性差：身体感覚・情動の未分化が女性の心拍知覚メタ認知の低下を予測する. 日本認知科学会第 39 回大会.
- 保高徹生・高田モモ・村上道夫・白井浩介・大沼進・柴田侑秀. (2023). 社会受容性からみた除去土壌の県外最終処分に向けた重要事項の整理. 第 36 回日本リスク学会年次大会.
- 市之川萌奈美・松島理明・工藤彰彦・佐久嶋研・西本尚樹・澤田潤・松岡健・南尚哉・佐光一也・武井麻子・久原真・佐藤典宏・佐々木秀直・矢部一郎. (2023). 多系統萎縮症新診断基準の有用性の検討. 第 64 回日本神経学会学術大会.
- 鎌谷美希・河原純一郎. (2023). 横顔の魅力変化における人種普遍性の検討. 日本基礎心理学会第 42 回大会.
- 金井 裕美子・高田モモ・大沼進・保高徹生. (2023). 県外最終処分の検討における市民・行政から見た重要事項の整理. 第 12 回環境放射能除染研究発表会.
- 河西哲子・蒔苗詩歌. (2023). 知覚体制化への時間的予測の影響における性差. 日本心理学会第 87 回大会.
- 河西哲子・小林慧・小川直輝. (2023). 表面特徴の異なる物体間の境界特徴に基づく注意誘導過程. 第 41 回生理心理学会大会.
- 神田 朔・金子沙永. (2023). 等輝度点滅による時間過大視. 日本視覚学会 2023 年夏季大会.
- 川村樹・真島理恵・高橋伸幸. (2023). 間接互恵性状況における情報伝達行動 - 情報の信頼性操作による検討. 日本人間行動進化学会第 16 回大会.
- 川村樹・真島理恵・高橋伸幸. (2023). 情報の信頼性を操作した、観絵節互恵性状況における情報伝達バイアスの検討. 日本グループ・ダイナミクス学会第 69 回大会.
- 小林慧. (2023). 思いやりがある人は相対的にネガティブな顔表情に注意が向く. 北海道心理学会第 70 回大会.
- 小林慧・河西哲子. (2023). 複数の他者の顔表情に対する早期 ERP と情動的共感性の関連. 第 41 回日本生理心理学会大会.
- Kudo, A., Yaguchi, H., Mizushima, K., Abe, M., Nagai, A., Uwatoko, H., Shirai, S., Iwata, I., Matsushima, M., & Yabe, I. (2023). A retrospective study of 335 patients with cerebellar ataxia. 第 64 回日本神経学会学術大会.
- 工藤彰彦・矢口裕章・渡部昌・上床尚・白井慎一・岩田育子・松島理明・高橋秀尚・畠山鎮次・矢部一郎. (2023). 自己免疫性小脳失調症に対する免疫沈降法と質量分析法を用いた網羅的自己抗体測定方法の開発. 第 35 回日本神経免疫学会学術集会.
- 日下部春野. (2023). 拒否回避傾向の文化差はどこからくるのか：関係流動性と評判懸念の役割. 日本社会心理学会.
- 日下部春野. (2023). ポジティブ評判の流通量に社会差は存在するか：経験サンプリング法を用いた検討（研究計画）. 人間行動進化学会第 16 回大会.
- 前田友吾. (2023). 職場流動性は自己主張を促進するのか. 日本社会心理学会.
- 松島理明・柴田有花・山田崇弘・矢部一郎. (2023). 神経難病の発症前遺伝カウンセリングの在り方は変化しつつある. 第 11 回日本難病医療ネットワーク学会学術集会.
- Matsushima, M., Sakushima, K., Kanatani, Y., Nishimoto, N., Sawada, J., Matsuoka, T., Uesugi, H., Minami, N., Sako, K., Takei, A., Hisahara, S., Tamakoshi, A., Sato, N., Sasaki, H., Yabe, I., Department of Health and Welfare, Hokkaido Government, Sapporo City Public Health Office, & HoRC-MSA study group. (2023). Natural history and epidemiological study of multiple system in Hokkaido: HoRC-MSA project. 第 64 回日本神経学会学術大会.
- 水鳥翔伍・高橋伸幸. (2024). 意思決定時間と社会的価値志向性の関連. ワークショップ：ヒトの協力行動の理解—間接互恵性とその周辺—.
- 森一仁・丁世堯・大沼進・相馬ゆめ・伊藤孝行. (2024). Discourse Quality Index (DQI) に基づく大規模言語モデルを用いた発言の自動分類. 第 4 回合意と共創研究会.
- 村上道夫・高田モモ・柴田侑秀・白井浩介・大沼進・保高徹生. (2023). 決定木分析による最終処分場受け入れ要因の解析：郵送法アンケート. 第 36 回日本リスク学会年次大会.
- 仲出川裕太・三浦健人・鈴木研悟・澁谷長史・大沼進. (2023). 炭素税の影響評価のための人間と AI のゲームプレイ. 日本シミュレーション&ゲーミング学会 2023 年秋期全国大会.
- 中俣友子・森康浩・浦田泰正・結城心太郎・大沼進. (2023). 河川沿いにおけるポイ捨て防止社会実験. 第 64 回日本社会心理学会大会.
- 中村凜・吉岡航太郎・堀裕亮・河合正人・中道正之・瀧本彩加. (2023). 離乳作業後の母ウマのストレスに影響する要因の探索的検討. 日本ウマ科学会第 36 回大会.
- 大沼進・柴田侑秀・木原なな・相馬ゆめ・辻本光英・植穂奈美・保高徹生. (2023). 除去土壌問題の国民的議論に向けた市民参加ワークショップと討議の質評評価. 第 36 回日本リスク学会年次大会.
- 小川健二. (2023). 運動や身体意識に関わる神経表象. 東京大学心理学研究室セミナー.
- 小川直輝・小林慧・河西哲子. (2023). 注意の初期選択過程と ADHD 傾向の関連. 日本認知心理学会第 21 回大会.
- 奥村安寿子・河西哲子. (2023). 文字列処理における単語優位性効果と空間的注意. 第 41 回日本生理心理学会大会.
- 小倉有紀子. (2024). 社会価値融和の認知・神経基盤の解明に向けて. 第 4 回合意と共創研究会.
- 小倉有紀子. (2023). 社会的合意形成の認知神経基盤の解明に向けて. 第 1 回計算論的精神医学研究会.
- 小野さくら・高橋伸幸. (2024). 情報伝達場面における同調の検討-表面的・内面的同調の弁別を図る-. ワークショップ：ヒトの協力行動の理解—間接互恵性とその周辺—.
- 小野さくら・青木颯太郎・館石和香葉・水鳥翔伍・高橋伸幸. (2023). 罰行使者に対する評価についての検討 Give some 型と Take some 型の比較. 日本社会心理学会第 64 回大会.
- 崔青林・柴田侑秀・原大拓・相馬ゆめ・辻本光英・大沼進. (2024). 異なる方法を組み合わせた討論データの複眼的な分析：福島県除去土壌問題を題材としたオンライン・ディスカッションの分析事例. 第 4 回合意と共創研究会.
- Sasaki, Y., Furuya, M., Osawa, T., Yanagi, T., Shimizu, K., Shibata, Y., Matsushima, M., Yabe, I., & Yamada, T.

- (2023). Genetic testing and clinical care for Birt-Hogg-Dubé syndrome: A study of 5 families. 日本人類遺伝学会第 68 回大会.
- 佐々木佑菜・三田村卓・松本隆児・栗谷将城・細田充主・安部崇重・柴田有花・松島理明・矢部一郎・山田崇弘. (2023). 当院における HBOC 症例のフォローアップに関する調査. 第 47 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会.
- 佐藤翔紀・上床尚・矢口裕章・山田萌美・佐藤和則・川島淳・深澤俊行・矢部一郎. (2023). 単一施設におけるフマル酸ジメチル使用 132 例の後方視的検討. 第 64 回日本神経学会学術大会.
- 柴田寛・小川健二. (2023). 言語・非言語刺激から言語・非言語表象を生成する脳内基盤. 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会 (HIP).
- 柴田有花・矢部一郎. (2023). 遺伝性神経疾患における発症前診断の現状と課題：全国調査の結果から. 47 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (シンポジウム 2).
- 柴田佑秀・相馬ゆめ・辻本光英・植穂奈美・木原なな・大沼進・保高徹生. (2023). 市民参加ワークショップ参加者の態度変容の検討：除去土壌県外最終処分を題材として. 日本社会心理学会第 64 回大会.
- 柴田佑秀・相馬ゆめ・辻本光英・植穂奈美・木原なな・大沼進・保高徹生. (2023). Discourse Quality Index を用いた討議の質の可視化：除去土壌をめぐる模擬市民参加ワークショップを題材として. 第 37 回人工知能学会全国大会.
- 柴田佑秀・相馬ゆめ・辻本光英・大沼進. (2023). 低濃度除去土壌の再生利用に対する反応の検討：所沢市と新宿御苑での実証試験に対する Twitter 投稿内容の計量テキスト分析に基づいて. 日本心理学会第 87 回大会.
- 柴田佑秀・崔青林・相馬ゆめ・辻本光英・植穂奈美・木原なな・高本真依子・保高徹生・大沼進. (2023). 除去土壌問題をめぐる市民参加ワークショップ参加者の態度変容. 第 36 回日本リスク学会年次大会.
- 柴田佑秀・崔青林・相馬ゆめ・辻本光英・植穂奈美・木原なな・高本真依子・保高徹生・大沼進. (2024). 除去土壌県外最終処分における信頼と社会的受容：市民参加ワークショップ参加者に対する質問紙調査に基づいて. 第 4 回合意と共創研究会.
- 島田咲・山田崇弘・源明理・松川愛未・矢部一郎・青木洋子・織田克利・植木有紗・東川智美・森川真紀・佐藤友紀・平沢晃・小川昌宣・近藤知大・吉岡正博・金井雅史・武藤学・小杉真司. (2023). がん遺伝子パネル検査の二次的所見開示プロセスに関する現状調査：多施設対象アンケート調査. 第 47 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会.
- Shimada, S., Yamada, T., Minamoto, A., Matsukawa, M., Yabe, I., Aoki, Y., Oda, K., Ueki, A., Higashigawa, S., Morikawa, M., Sato, Y., Hirasawa, A., Ogawa, M., Kondo, T., Yoshioka, M., Kanai, M., Muto, M., & Kosugi, S. (2023). Open-ended responses to a multicenter survey of the secondary finding disclosure process for cancer genome profiling. 日本人類遺伝学会第 68 回大会.
- 白井浩介・高田モモ・村上道夫・大沼進・山田一夫・大迫政浩・保高徹生. (2023). 共分散構造分析による最終処分受入への影響因子の評価：オンラインアンケート. 第 36 回日本リスク学会年次大会.
- 白井慎一・江口克紀・山崎和義・松島理明・川堀真人・藤村幹・矢部一郎. (2023). MRgFUS 後に再憎悪した振戦優位型パーキンソン病に対して STN-DBS を行った 1 例. 第 23 回北海道機能神経外科研究会.
- 白井慎一・江口克紀・山崎和義・松島理明・川堀真人・平田健司・藤村幹・矢部一郎. (2023). パーキンソン病脳深部刺激療法術後 5 年目における治療有効性の評価. 第 17 回パーキンソン病・運動障害疾患コンGRESS.
- 白井慎一・林宏至・岡田和史・伊藤陽一・佐々木秀直・矢部一郎. (2023). 脊髄小脳失調症 1 型の自然歴調査研究. 第 64 回日本神経学会学術大会.
- 相馬ゆめ・柴田佑秀・植穂奈美・中澤高師・辰巳智行・有馬淑子・大沼進. (2023). 除去土壌問題を巡る公共的討議における議論フレームの効果：集団討議実験を用いた検討. 第 36 回日本リスク学会年次大会.
- 相馬ゆめ・柴田佑秀・辻本光英・中澤高師・辰巳智行・大沼進. (2023). 集団意思決定における公正さと“討議の質指標”の対応関係の検討：低濃度除去土壌福島県外処理問題を題材とした集団討議実験. 日本社会心理学会第 64 回大会.
- 相馬ゆめ・植穂奈美・柴田佑秀・辻本光英・崔青林・中澤高師・辰巳智行・有馬淑子・大沼進. (2024). 議論フレームと少数意見の反映における関連の検討：意見の違いを乗り越える集団討議のあり方とその帰結. 第 4 回合意と共創研究会.
- 高田モモ・保高徹生・村上道夫・大沼進・柴田佑秀. (2023). 福島県外での最終処分に対する関東・関西地域の市民の意識：オンラインインタビューから見えたこと. 第 36 回日本リスク学会年次大会.
- 高田モモ・保高徹生・村上道夫・大沼進・柴田佑秀. (2023). 県外最終処分政策への賛否 (2) インタビュー調査. 第 12 回環境放射能除染研究発表会.
- 高田モモ・保高徹生・村上道夫・大沼進・柴田佑秀. (2023). 県外最終処分政策への賛否 (1) アンケート調査. 第 12 回環境放射能除染研究発表会.
- 瀧本彩加. (2023). 豊かな表情筋を持つウマ—目と耳と口で感情を語る. 日本動物行動学会第 42 回大会.
- 瀧本彩加. (2023). ウマにおける表情の表出と知覚. 日本感情心理学学会第 31 回大会.
- 瀧本彩加・藤田和生. (2023). 協力は、フサオマキザルのコストを伴う向社会的な報酬分配を促進するか？ 関西心理学会第 123 回大会.
- 反田智之・前澤知輝・河原純一郎. (2023). 視覚特徴の数が積極的な注意抑制に与える影響. 日本基礎心理学学会第 42 回大会.
- 垂澤由美子・大沼進. (2023). 偏見低減における直接接触と拡張接触の効果比較について. 日本シミュレーション&ゲーミング学会 2023 年秋期全国大会.
- 舘石若香葉・高橋伸幸. (2023). 普遍主義均衡の安定性を低下させる要因の検討. 日本人間行動進化学会第 16 回大会.

- 舘石和香葉・高橋伸幸. (2023). 普遍主義均衡の安定性を低下させる要因の検討. 日本社会心理学会第 64 回大会.
- 舘石和香葉・高橋伸幸. (2024). 内集団ひいき行動および集団を越えた協力の評判. ワークショップ：ヒトの協力行動の理解 一間接互恵性とその周辺一.
- 舘石和香葉・糸瀬日菜・水鳥翔伍・Barclay, P.・高橋伸幸. (2023). 集団を越えた相互作用の社会差—機会コストへの反応の検討—. 日本グループ・ダイナミックス学会第 69 回大会.
- 辰巳智行・中澤高師・相馬ゆめ・大沼進. (2023). DQI による議論評価と指標化の課題：ミニパブリクス型熟議イベントの議論データ分析を事例として. 第 2 回合意と共創研究会.
- 辻本光英・河合康介・大沼進. (2023). 共有される状況認識の違いは合意形成を促進・阻害するか共有資源の利用をめぐる葛藤を表現したゲーミングによる検討. 第 64 回日本社会心理学会.
- 辻本光英・柴田侑秀・中川達哉・大沼進・栗山尚子. (2023). 福島県大熊町への帰還者と帰還切望者の活動とその思いに関する語りの収集. 第 36 回日本リスク学会年次大会.
- 辻本光英・鈴木祐人・大沼進. (2023). 除去土壌の福島県外最終処分をめぐる合意形成過程—段階的な公衆-ステークホルダー参加・関与による意思決定プロセスを模したゲームの開発—. 日本シミュレーション&ゲーミング学会 2023 年秋期全国大会.
- 鶴見周摩・河原純一郎. (2023). 動機付けを用いたモザイク課題における部分遮蔽が顔の魅力に及ぼす影響. 日本基礎心理学会第 42 回大会.
- 上床尚・佐藤翔紀・山田萌美・佐藤和則・白井慎一・岩田育子・松島理明・矢口裕章・川島淳・深澤俊行・矢部一郎. (2023). フィンゴリモドの投与感覚と再発予防効果の検討. 第 64 回日本神経学会学術大会.
- 上床尚・佐藤翔紀・白井慎一・岩田育子・松島理明・矢口裕章・矢部一郎. (2023). 視神経脊髄炎関連疾患 (NMOSD) に対するサトラリズマブの使用経験. 第 35 回日本神経免疫学会学術集会.
- 矢部一郎. (2023). 父親がハンチントン病と臨床診断されており発症前診断を希望する健常女性の症例. 第 64 回日本神経学会学術大会〈教育コース 05 (中級向け)〉.
- 矢部一郎. (2023). 脊髄空洞症の移行医療. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業) 「神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者の QOL 向上に資する研究」班 令和 5 年度ワークショップ.
- 矢口裕章・工藤彰彦・野村太一・江口克紀・田中恵子・米田誠・木村暁夫・下畑亨良・矢部一郎. (2023). 本邦における自己免疫性小脳失調症レジストリ作成と診断基準作成の試み. 第 41 回日本神経治療学会学術集会.
- 矢口裕章・工藤彰彦・矢部一郎. (2023). 特発性小脳性運動失調症に類似する自己免疫性/傍腫瘍性疾患. 第 41 回日本神経治療学会学術集会〈シンポジウム 2〉.
- Yaguchi, H., Wakita, M., Otsuki, M., Tanikawa, S., Miki, Y., Kudo, A., Nagai, A., Uwatoko, H., Mito, Y., Yoshizaki, K., Hara, T., Ikeuchi, T., Tanaka, S., Wakabayashi, K., & Yabe, I. (2023). Pathological study of PSP-like syndrome cases with mutations in BSN and BSN knock-in mice. 第 64 回日本神経学会学術大会.
- Yang, Y., Haruki, Y., Niida, M., Yamagata, T., & Ogawa, K. (2023). Transcranial direct current stimulation improves the awake reactivation in the primary motor cortex. 第 7 回ヒト脳イメージング研究会.
- 山縣豊樹・水鳥翔伍・小川健二. (2023). 手に対する所有感の神経基盤を再考する：因果構造の整理と先行研究データの二次分析. 日本生理心理学会第 41 回大会.
- 山本レイ・金子沙永. (2023). 観察時間による明度同時対比・ダンジョン錯視の変化. 日本視覚学会 2023 年夏季大会.
- Yonemura, A., Matsui, H., & Takimoto, A. (2023). Comparison of horses' avoidance responses to inequitable reward sharing by conspecific or human partners. 日本動物心理学会第 83 回大会.

# 付録 組織構成員

(2023年3月現在)

## (1) 専任教員

小倉有紀子 社会科学実験研究センター・特任助教  
JST さきがけ研究者

## (2) 兼務教員一覧

大沼進 文学研究院・教授、  
社会科学実験研究センター・センター長  
田中真樹 医学研究院・教授、  
社会科学実験研究センター・副センター長  
宮内泰介 文学研究院・教授  
尾崎一郎 法学研究科附属高等法政教育研究センター・教授  
五十嵐洋介 経済学研究院・准教授  
深山誠也 経済学研究院・准教授  
小濱祥子 公共政策学連携研究部・准教授  
矢部一郎 医学研究院・教授  
結城雅樹 文学研究院・教授  
高橋泰城 文学研究院・准教授  
高橋伸幸 文学研究院・教授  
竹澤正哲 文学研究院・教授  
小川健二 文学研究院・准教授  
瀧本彩加 文学研究院・准教授  
河原純一郎 文学研究院・教授  
金子沙永 文学研究院・准教授  
河西哲子 教育学研究院・教授  
阿部匡樹 教育学研究院・准教授  
中島晃 文学研究院・助教

## (3) 連携研究員一覧

坂上雅道 玉川大学脳科学研究所、  
大学院脳情報研究科・教授  
亀田達也 東京大学大学院人文社会系研究科・  
教授

増田貴彦 アルバータ大学・教授  
Harvey オックスフォード大学・教授  
Whitehouse  
Kim-Pong Tam 香港科技大学・准教授  
仲 真紀子 理化学研究所・理事  
伊藤孝行 京都大学大学院情報学研究所・教授

## (4) 運営委員会委員一覧

大沼進 文学研究院・教授、  
社会科学実験研究センター・センター長  
田中真樹 医学研究院・教授  
社会科学実験研究センター・副センター長  
増田哲子 メディア・コミュニケーション研究院・准教授  
伊藤崇 教育学研究院・准教授  
多留偉功 薬学研究院・准教授  
岩下明裕 スラブ・ユーラシア研究センター・教授  
河原純一郎 文学研究院・教授  
尾崎一郎 法学研究科・教授  
河西哲子 教育学研究院・教授  
五十嵐洋介 経済学研究院・准教授

## (5) 研究倫理委員会委員一覧

高橋伸幸 文学研究院・教授  
阿部匡樹 教育学研究院・准教授  
松尾睦 青山学院大学経済学部・教授  
石井敬子 名古屋大学情報学研究所・教授  
河合正人 北方生物圏フィールド科学センター・准教授

## (6) 質保証委員会委員一覧

大沼進 文学研究院・教授、  
社会科学実験研究センター長  
結城雅樹 文学研究院・教授  
石井敬子 名古屋大学情報学研究所・教授  
(外部委員)  
泉澤成実 文学事務部事務長







社会科学実験研究センター